

苦悩

自分の苦しみがだれにでも一番大きなものに見えます。「私のような不幸な者は、とてもいないだろうと思います。」というのが、苦悩を訴える大部分の人々の言葉です。確かにだれでもそう考えるのです。しかし、それも人間の持つまちがいの一つであります。

つきつめて言うならば、苦しまない人はいないのです。

釈尊はこの世の極楽のような、華やかな宮殿の中、多くの人たちが希望する幸福の条件の全部そろった中に立って「人生は苦悩だ！」と叫ばれました。

確かに苦悩です。もし人生は楽しい所だと単純に言ってしまう人があるならば、それは眠っているか、酔っているかであります。ほんとうに人生をじつと見つめた時、確かに人生は苦悩であります。

しかし、もつと深く考えた時、私はこう言ってみたいのです。私たちが生きているということは、ただ楽しかったらいいでしょうか？私には楽しい。私には苦しみが無い。それだけで満足ができるでしょうか。もしそうであるならば狂者がいちばん幸福です。魂が麻酔した者が幸福です。しかし私はそうは思わない。そうです。私はそうは思わない。

狂者となつて笑うより、人間となつて泣け。

見よ！

大聖釈尊は、天上界中の宮殿の中に、人生は苦なりと叫びたまひぬ。

市井の狂者、文化の中に笑う。

酔うて笑うよりは、さめて泣け、

ああ、我はまず人間でありたい。